

上野オリ・パラ通信 vol.5

「東京オリンピック・パラリンピック競技大会まであと〇〇日です。11月〇日、今日の放送を始めます。」

給食の時間には、放送委員の人たちが毎日、東京オリンピック・パラリンピック競技大会へのカウントダウンを行ってくれています。大会の延期が決まって、カウントダウンの日数が500日まで膨れ上がった日から、一日一日時を刻み、東京オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けて前進しているのでしょうか。これからも、令和3年7月23日の開会式に向けて、げた箱での日めくりカウントダウン、給食での放送を続けていきます。

【オリ・パラ教育特別授業:6年「南中ソーラン」】

悪天候により一部延期があったものの、上野小学校体育学習発表会が無事に行われました。制約のある中で、子供たちの頑張ってきた成果や学習の中で培ってきたものが十分に発揮される舞台となりました。キラキラと輝いている子供たちの姿を上野小ホームページから全学年分動画で視聴することができます。ぜひ御覧ください。

さて、今回体育学習発表会で6年生が取り組んだ「南中ソーラン」の練習では、YouTubeで南中ソーランの練習動画や体づくり動画を100件以上配信し、活躍中の「モリモリ博士」こと守屋俊介さんに特別講師として御来校いただき御指導をいただきました。

普段から「モリモリ博士」の動画を見ながら練習してきた6年生にとって、画面から飛び出し目の前にいる御本人に心を躍らせました。短い時間でしたが、ソーラン節の世界観や一つ一つの動きの意味、体を大きく動かすコツやかっこよく踊るための大事なポイントを具体的に分かりやすく、楽しく教えていただきました。それらをたくさん吸収した6年生の姿はより生き生きしたものとなり、本番では力強く堂々と南中ソーランを踊る姿が見られました。

モリモリ博士はいわゆるYouTuberとして活躍されている方なので、今回の上野小学校で行った練習動画をいくつも配信されています。ぜひ御覧ください。



【モリモリ博士の授業を終えての6年生の感想】

【授業から学んだこと】

- ソーラン節の動き一つ一つに漁師の思いが込められていること。
- 「ろこぎ」や「かまえ」のときにはただ腰を低くするだけではなく、足の角度や太ももの位置も意識すること。
- 波は手を引くときに力を入れること。
- 一つ一つの動きで止まるところはしっかりと止まることでかっこよくなること。
- 上手に踊れるかも大事だけど、それよりも気持ちが一番大事であること。

【モリモリ博士について】

- 12年もソーランをやっているから動きは大きくメリハリがついていてかっこよかった。またそれぞれの動きのコツがわかりやすくてすごいと思った。

アスリートのこぼれ話【アスばな】のコーナー Vol.2

競泳選手である池江璃花子さんは、東京五輪最大のヒロインとして国民の期待を集めていました。ところが、急性リンパ性白血病という病で、その夢が断たれてしまいました。このニュースを知ったときの衝撃は今でもよく覚えています。



過酷な闘病生活、練習再開後の厳しい現実、それでもあきらめずに前進する池江さんの生き方から学ぶことができます。それは、「何を原動力にするかは考え次第だ」ということです。池江さんの病気が発覚したのは2019年2月8日。そこから壮絶な闘病生活の日々が始まり、一時は「こんな人生ならば死んだ方がいい」とまで思ったそうです。それでも、「神様は乗り越えられない試練は与えない。」と自分に言い聞かせ、周囲の人々の支えを得ながら努力を続けました。病状は次第に快方に向かっていきました。プールに入る許可は、医者からなかなか出ませんでした。病気が発覚から1年後の2020年2月8日、病後初めてのジム練習となりました。そこで池江さんは「今日は私にとって大切な日。2月8日を人生の記念日にしよう。」と決めました。また、水泳ができない現状に対して「かつて当たり前だったことが、再びできるようになったとき、すごく幸せを感じる。日常に感謝して生きていかななくては。」とも思ったそうです。

当たり前の日常に感謝し、過酷な経験すらも自らの原動力に変える池江さんからは、勇気をもらうことができます。ネガティブにとらえがちなことでも、考え次第で原動力に変わるはず。目標をもつことは、前向きに人生を送るために、とても大切なことなのだと思います。

【行ってきましたのコーナー】

教員シリーズで栗山先生→倉澤先生→三ノ丸先生と続いてきた聖火リレーは、今号も続いています。かつて本通信の第2号でトーチを手に取った方を募集し御連絡を待っていたところ、6年2組の中里幸太さんから御連絡を受け、今号でリレーに参加してくれました！！場所は新宿の都庁で、昨夏にトーチ公開をした際に参加されたとのこと。これからもトーチリレーを通信内で続けていきたいと思っています。児童の皆さんで、トーチを持った写真等ある方はぜひ担任まで御連絡ください。



上から見ると桜の形になってきれいだなと思いました。

教えてオリパラちゃん

【東京2020大会：素材いろいろ編】

●東京大会のメダルの素材は何からできているの？

東京オリ・パラ競技大会で選手に授与されるメダルのデザインはすでに公開されていますが、その素材はなんと、使用済み小型家電等から集められたリサイクル金属なんだって。2017年4月から2年間かけて回収された小型家電は621万台にもものぼったそう。すでに、東京大会に必要な5000個分のメダルを作るための金属は確保できているんだって。いらなくなった家電がアスリートにとってかけがえのない宝物に変わると思うとなんだかワクワクするね。

●選手村の各部屋にあるベッドの素材は何からできているの？

メダルに続きこちらでもエコ！選手村の部屋で選手が寝るベッドのフレームはなんと段ボールなんだって！エコとはいえ、強度が心配になるけれど、なんと200kgまで耐えられるベッドになったそう。もちろんベッドフレームの上に敷くマットレスは選手の体型や体重によってカスタマイズできるものを採用しているから安心。寝心地もいいみたいで、さらに丈夫で低コストな上、環境にも配慮した寝具は東京2020大会ならではとっているんだよ。

●聖火リレーのトーチの素材は何からできているの？

左の二人が持っているトーチは実はとても軽い！！このトーチは、東日本大震災の被災地で使われた仮設住宅のアルミ建材廃材が素材の一部として再利用されているんだそう。多くの被災者の生活を支えたアルミが桜をかたどった約11000本の美しいトーチに生まれ変わったのです。

ちなみに、メダルをもらう表彰台は、使用済みのプラスチックでつくられているんだよ。環境に配慮した日本ならではの取り組みがたくさん見られるね！！



オリパラちゃん

